

**砂川市立病院医学雑誌投稿規定**  
(Journal of Sunagawa City Medical Center)

I. 医学関係論文

1. 本誌に掲載する論文は、砂川市立病院職員及び本誌に掲載を希望する関係者の投稿するものとする。
2. 投稿論文は原著、症例報告、総説、診療研究、その他の研究活動からなり、他誌に未掲載のものとする。
3. 掲載論文の採否及び掲載順位は編集委員会で決定する。

4. 論文形式

- a) 原稿の記述の順序は以下の通りとし、それぞれの番号のところで改頁する。

- ①和文表紙:和文の表題、所属、著者名の順に記載する。
- ②和文要旨:400字以内の要旨を記載する。
- ③5語以内のKey Words(英語)を記載する。
- ④英文でタイトル、所属、著者名を記載する。
- ⑤本文 {はじめに 材料と方法 結果 考案 }の順に記載
- ⑥文献
- ⑦図、表及び図・表説明
- ⑧投稿総字数を表紙下部に手書きで明記

5. 論文の書き方

- a) 原稿は和文の場合、原著、総説8,000字以内とする。又フロッピー(3.5インチ)/MO/CDでの提出の際には以下の点に注意して下さい。
- ①パソコン(Macintosh、Windowsどちらも可)の場合は、ワープロソフト(MS word)を使用することを希望します。それ以外のアプリケーションを使用するときはTEXT形式で本文を保存すること。
  - ②手書き・ワープロ原稿は受け付けません。
  - ③文字と改行だけで単純に棒打ちして下さい。
- b) 英文では必ずパソコンを使用し、ワープロソフト(MS word)を使用するか、それ以外のアプリケーションを使用するときはTEXT形式で本文を保存すること。1行おき28行以内で枚数は和文と同様とする。人名、地名などの固有名詞はなるべく源字を用い、最初の1字のみ大文字とする。また普通名詞は全部小文字とする。必ずnative speakerの校正を受けてください。
- c) 数字は算用数字を用い、度量衡は国際単位系(SI)で記載する。
- d) 論文にて繰り返される語は略語を用いても差し支えないが、初出の時は完全な用語を用いることを明記する。
- e) 図(写真を含む)、表は別紙とし、図1、図2、あるいは表1、表2のように番号を付け、挿入箇所を明記する。写真は原則として白黒とし、手札サイズで印画紙に焼き付けたものとする。又必ずデジタルデータで提出してください。カラー図・表を希望する方はカラーにて印刷し(最低1440dpiの出力を有するプリンターを使用)、同時にデジタルデータ化してください。同時にカラー図掲載の希望を委員会までお知らせください。画像の目安としては 原寸で約300dpiの解像度相当で取り込み、JPEG/BMP形式で保存して下さい。
- f) 論文本体、図(写真を含む)及び表は1セットプリントし、提出して下さい。
- g) 引用文献

- ①文献は本文中において引用のつど番号(1)、2)、3)のように算用数字で)をうち、末尾に引用順に一括する。
- ②雑誌の場合～著者名. 論文名. 雑誌名 巻(号):頁, 発行年(西暦).

【著者1名】

- 1) 谷藤順士:皮膚疾患の臨床. 臨床皮膚 12(4):745-752, 1990.
- 2) Hawkey C.J.:COX-2 inhibitors. Lancet. 353(9149):307-314,1999.

【著者2名以上】

- 1) 小林広幸 他:慢性関節リウマチ患者にみられた腸の潰瘍性病変. 胃と腸 26(9):1247-1256, 1991.
- 2) Stillman M.J. et al:Desmoplastic malignant melanoma. Int J Pathol. 24(5):28-35, 1989.

外国誌は、Index Medicusの略誌名

邦文誌は、「医学中央雑誌収載誌目録」(医学中央雑誌刊行会)による略名を使用する。

- ③単行本の場合～著者名. 書名, 版. 頁, 発行所, 発行地, 発行年.

【単行本】

- 1) 小野江為則. 電顕腫瘍病理学, 第2版. 153-173, 南山堂, 東京, 1986.
- 2) Murphy GP :Advances in cancer research, 2nd ed. John Wiley and Sons, New York,1990.

【単行本の1章】

- 1) 川端 真 血管縫合の実際, 浜野哲男他(編):脈管外科. 医学書院, 東京, 1990.
- 2) Heyes RB. et al: Histologic markers in primary and metastatic tumors of the liver. :Andreoli M, Monaco Feds. The tumor of the liver,140-150,Elsevier Science Publishers, New York,1989.

6. 別刷は20部無料で用意します。それ以上必要な方は投稿時に委員会まで、ご連絡ください。

II. 業績について

学会活動録(地方会、総会、その他研修会=院外での集会での発表)は筆頭演者、演題、学術集会名、日時、場所、掲載論文は、著者全員、論文名、掲載雑誌名、巻:頁一頁、発表年 の順に記載し、編集委員会に提出すること。

III. 投稿、編集などに関する問い合わせは下記とする。

〒073-0196

北海道砂川市西4条北2丁目1番1号

砂川市立病院 一医学雑誌編集委員会一

TEL(0125)54-2131(514)

## 編集後記

2006年砂川市立病院医学雑誌Vol.23を編集し、発刊することができました。ようやく2年前の編集時期のずれを回復できたかと思っていましたが、今度は自らの編集作業の遅れもあり、また夏近くの発刊となりました。今回は病院のオーダリングシステムの新稼働と時期がかぶり投稿される方には大変なご迷惑をかけたような気がしています。この雑誌の編集も個人的には6回を担当し、力のなさと新しい風の必要性を痛感しています。

砂川市立病院医学雑誌編集委員会 編集委員長 岩木 宏之

## 編集委員会

委員長	岩木 宏之	
委員	田口 宏一	柳瀬 雅裕
	伊藤 ひろみ	河原林 良子
	執賀 愛子	新崎 祐馬
	大屋 重幸	光畑 幸美
	禎島 利奈	中島 孝治
	佐々木 千春	森田 康晴
	村上 達哉	小俣 憲治
	田中 静江	

砂川市立病院医学雑誌 第23巻 第1号

平成18年7月1日 印刷・発行

発行人 小熊 豊  
発行所 砂川市立病院  
北海道砂川市西4条北2丁目1番1号

印刷所 広小路印刷機  
北海道滝川市一の坂町西3丁目1-31

# 巻頭言

—平成18年は厳しい医療環境のなか、新病院建設元年になる—



院長 小 熊 豊

勤務医不足が叫ばれて久しいが、一向に改善する動きは見えず、益々悪化している。年間4,000人も(医師国家試験合格者のおよそ50%)開業ラッシュが続き、大学から、あるいは様々な規模の、様々な役割を持った病院から、勤務医が消えている。am9:00からpm5:00まで診療の開業医は、勤務医に比べて苦労は半分、報酬は2倍、結局4倍、得をするのだそう(実際はもっとかも)、勤務医としての自覚、使命感も、いつか疲労の波に押し流され、虚無感につつまれるという。同じことが薬剤師、看護師、技師などにもみられ、激務、重責に耐え頑張っている。一方、新臨床研修制度が2年目を迎え、大学の中には独立行政法人化とあいまって、つぶれる所も出そうだという噂まで広がっている。我々自治体病院の間でも、生き残りをかけて効率的健全経営の確保が叫ばれて久しい。更に医師の集約化、病院機能の拠点化などの構想も模索され、地域医療のあり方が盛んに議論されている。

国は医療費の抑制を至上命題とし、老人医療費の負担増や、保険組合制度の再編、診療報酬のマイナス改定を実行しようとしている。全国170万人にもおよぶ病院関係者の夢であった、中医協へ参画し、病院サイドからの医療への提言、改革を行うことが、関係者の努力により今年やっとなり可能になったと喜んでいたら、中医協の役割が制限され、医療のあり方、医療費の配分などの根本的問題は、政府、社会保障審議会が担うよう変更されたという。我々病院関係者の声が以前より届かないことはないと思うが、従来のように開業医偏重の診療報酬制度を改め、真に必要な医療費(無駄が多いのも事実)確保を行い、我々病院関係者への評価を正当なものとしなければ、地域医療は益々混迷を深め、立ち行かなくなると言わざるを得ない。“医の心、医は仁術”と、都合の良いことばかり言うのは、終わりにしていただきたいと思うのである。

話を砂川市立病院に戻すことにしましょう。近隣4市2町による合併問題が破綻し、地域医療の再編構想が頓挫して以来、当院は地域センター病院、地域がん診療拠点病院、地域周産期母子医療センター、単独型・協力型臨床研修病院、災害拠点病院にふさわしい医療、また新病院の建設に取り組んできました。外来、入院ともに患者数が増加、医療内容のupとともに、病院機能評価に認定され、NST稼働施設としても認証されましたし、10名の研修医がとても熱心に研修に励んでいます。奈井江町立国保病院とは正式に医療連携体制を締結し、患者様の診療ばかりでなく、医師の派遣、機器の共同利用、研修会、勉強会などのあらゆる面で病々連携を進めることになりました。また第1回大規模災害訓練を行い、災害用備蓄倉庫も用意できましたし、新病院建設のための基本構想を策定し、基本設計に着手するところまで来ております。更に電子カルテシステムを導入し、オーダーリング、看護支援システムから稼働して逐次拡大を図っていき、来年度中には電子カルテ段階まで達する予定でいます。業務量の増大、人手不足には、クレーク、助手を大量に採用して緩和を図ったところですが、医師、薬剤師、看護師をはじめ、多くの部門で業務量に比してなおman power不足の状況にあることは承知しており、当院の最大の課題と考えています。

そうしたなか砂川市立病院医学雑誌第23巻が発行されることとなりました。昨年1年間に苦労しながら経験した貴重な症例、業績の発表の一端で、当院職員の汗と努力の結晶であります。関係各位の日夜を分かたぬ努力には、この場を借りて感謝申し上げます。また編集委員の方々には、大変お忙しい中を貴重な時間と労力を注いでいただき、このように立派に刊行できましたこと、心からお礼申し上げますと存じます。

平成18年度には先にも申し上げましたが、新病院建設に向け基本設計、次いで実施設計が行われる予定です。病院建築に当たっては、基本設計が最も大事と言われております。設計業者と各部門を担当する職員の皆さんとで、じっくり、かつ将来を見越して漏れのないように、綿密に打ち合わせをしていただきたいと思います。皆さんと一緒に、いい病院を作ろうではありませんか。

# 砂川市立病院医学雑誌

第23巻第1号 2006年7月

## 目 次

### 巻 頭 言

小熊 豊

### 特 別 寄 稿

昭和40年代後半からの勤務をふりかえる十今後への期待

高塚 慶次 ..... 1

新医師臨床研修制度がもたらしたもの、もたらずもの

湊 正意 ..... 3

砂川市立病院附属看護専門学校開設15周年

三浦美恵子 ..... 8

### 投 稿 論 文

巨大嚢胞を呈した膵管内乳頭粘液性腺癌の1例

本間 理央 吉田 行範 岸澤 有華 鈴木 誉也 新崎 人士  
廣海 弘光 渡部 直己 日下 大隆 小熊 豊 ..... 14

閉塞性黄疸で発症しステロイド治療が奏効した自己免疫性膵炎の1例

本間 理央 鈴木 誉也 岸澤 有華 新崎 人士 廣海 弘光  
吉田 行範 渡部 直己 日下 大隆 小熊 豊 ..... 17

減圧PEGの一例

中積 宏之 渡部 直己 岸澤 有華 鈴木 誉也 新崎 人士  
廣海 弘光 吉田 行範 日下 大隆 小熊 豊 ..... 19

小腸大量出血の1例

長谷徹太郎 吉田 行範 本間 理央 岸澤 有華 鈴木 誉也  
新崎 人士 廣海 弘光 渡部 直己 日下 大隆 小熊 豊  
齊藤 仁志 林 俊治 松久 忠史 田口 宏一 湊 正意 ..... 23

“もの忘れ専門外来”の2年間の活動報告

内海久美子 館農 勝 小林 清樹 寺岡 政敏 高橋 明  
齊藤 正樹 森井 秀俊 藤井 一輝 大辻 誠司 ..... 26

当院でのCypher stentの初期成績

清水 紀宏 佐々木 基 平林 高之 伊藤 文博 ..... 30

消化管吻合術におけるドレーンの必要性の検討

松久 忠史 安念 和哉 林 俊治 田口 宏一 湊 正意 ..... 34

腹壁に発生したChronic Expanding Hematomaの一例

須田 徹也 小松 磨史 四ッ柳高敏 ..... 37

3D-CT Angiographyの工夫

柴田 和則 高橋 明 齊藤 正樹 本間 敏美 恩田 敏之  
茅野 伸吾 ..... 41

卵円孔開存による脳塞栓症の2例

本間 敏美 齊藤 正樹 柴田 和則 高橋 明 ..... 43

カラーアトラス Ca拮抗剤による乾癬型薬疹

高塚 紀子 ..... 45

## 当院における腹膜透析の現状

久末 伸一 高塚 慶次 柳瀬 雅裕 福多 史昌 西田 幸代  
宮本慎太郎 加藤 秀一 島 正樹

## 患者が参画できる看護の取り組み

### ー患者と目標を共有してー

後藤 千枝 ..... 51

## 病棟におけるリスクカンファレンス実施後の看護師の変化

藤森 理恵 谷口永里子 辻口 聖奈 ..... 56

## 苦痛緩和に対するの援助と家族との関わりから学んだこと

三谷 洋志 ..... 59

## 入院初期から退院後の生活の姿を描くことの大切さを学んだ事例

三浦 香織 ..... 66

## “患者様の声”から変わるクリニカルパス

### ～アンケート調査結果から考えるヘルニアパス改定～

横浜 太一 ..... 69

## 新人レポートを共有しての病棟の取り組み

伊東 未来 大嶋 守 ..... 73

## 看護部インシデントレポート集計報告

尾西 孝一 ..... 76

## 29年間の入院生活からグループホームへの入居が実現した事例の再考

岩井久美子 小坂 幸子 ..... 78

## 母子分離を余儀なくされた双胎児と母との愛着形成への働きかけ

上嶋 智美 ..... 82

## 創痛の軽減と成人期にある患者への関わり

金田 礼子 ..... 86

## 手根管症候群と肘部管症候群における電気生理学的検査の実際と応用

芦原 卓也 齊藤 正樹 光畑 幸美 納口 聡子 高橋 康弘  
舘田 健児 小助川維摩 谷代 恵太 小幡 浩之 宮野 須一 ..... 94

## 超急性期リハビリテーションの取り組み

### ～早期退院を目指して～

三枝 幹生 新関 友博 齊藤 正樹 柴田 和則 本間 敏美  
高橋 明 ..... 92

## CPCLレポート

### 1. 両側気管支肺炎の一例

柳田雄一郎 ..... 101

### 2. 瀰漫性誤嚥性気管支炎として治療された粟粒結核症の一例

上田 敬子 ..... 104

### 3. 肺癌の一例

大西 史師 ..... 108

### 4. 原発不明癌の一例

堀口 貴行 ..... 110

### 5. 多発肝転移にて死亡した胃癌の一例と緩和療法

中積 宏之 ..... 113

### 6. 尿管癌の一例と癌ペプチド療法

加藤 秀一 ..... 116

## 砂川市立病院における大規模災害訓練実施後のアンケート結果

高田 綾子 ..... 121

## 院内統計

### 中央手術室の年間集計報告(平成17年)

福塚 智美 ..... 129

### 平成17年当院における時間外受診者状況及び救急車搬入搬出状況

村上 達哉 山川 和弘 梶浦 孝 ..... 134

### 最近5年間の砂川市立病院事業収支状況

堀下 直樹 森田 一巳 ..... 138

### 病院サービスに対する入院患者の意識調査とまとめ

伊藤 民子 佐々木博美 ..... 144

## カラーページ

..... 155

## 平成17年(2005年)学術・学会活動記録

掲載論文・学会発表 ..... 159

Contents

REFLECTION

*K. Takatsuka.* ..... 1

THOSE WHICH THE NEWLY INTRODUCED POST-GRADUATED CLINICAL TRAINING SYSTEM FOR MEDICAL PRACTITIONERS IN JAPAN BRINGS AND BROUGHT ABOUT

*M. Minato.* ..... 3

SUNAGAWA MEDICAL CENTER NURSING SCHOOL'S 15TH ANNIVERSARY

*M. Miura.* ..... 8

A CASE OF INTRADUCTAL PAPILLARY-MUCINOUS CARCINOMA OF THE PANCREAS WITH LARGE CYSTS

*R. Honma, Y. Yoshida, Y. Kishizawa, T. Suzuki, H. Shinzaki,  
H. Hiroumi, N. Watanabe, H. Kusaka, Y. Oguma.* ..... 14

A CASE OF AUTOIMMUNE PANCREATITIS WITH OBSTRUCTIVE JAUNDICE SUCCESSFUL TREATED BY STEROID THERAPY

*R. Honma, T. Suzuki, Y. Kishizawa, H. Shinzaki, H. Hiroumi,  
Y. Yoshida, N. Watanabe, H. Kusaka, Y. Oguma.* ..... 17

A CASE REPORT OF PEG FOR GASTROINTESTINAL DECOMPRESSION

*H. Nakatsumi, N. Watanabe, Y. Kishizawa, T. Suzuki, H. Shinzaki,  
H. Hiroumi, Y. Yoshida, H. Kusaka, Y. Oguma.* ..... 20

A CASE OF MASSIVE HEMORRHAGE FROM SMALL INTESTINE

*H. Tetsutarou, Y. Yoshida, R. Honma, Y. Kishizawa, T. Suzuki,  
H. Shinzaki, H. Hiroumi, N. Watanabe, H. Kusaka, Y. Oguma,  
H. Saito, S. Hayashi, T. Matsuhisa, K. Taguchi, M. Minato.* ..... 23

REPORT OF MAMORY CLINIC OVER THE LAST TWO YEARS

*K. Utsumi, M. Tateno, S. Kobayashi, M. Teraoka, A. Takahashi,  
M. Saitou, H. Morii, K. Fujii, S. Ootuji.* ..... 26

LONG-TERM OUTCOME OF CYPHER STENT IMPLANTATION

*T. Shimizu, M. Sasaki, T. Hirabayashi, F. Itou.* ..... 30

GASTROINTESTINAL SURGERY DOES NOT REQUIRE ABDOMINAL DRAINAGE

*T. Matuhisa, K. Annen, S. Hayashi, K. Taguchi, M. Minato.* ..... 34

THE CASE OF CHRONIC EXPANDING HAMATOMA IN ABDOMINAL

*T. Suda, K. Komatu, T. Yotsuyanagi.* ..... 37

NEW METHOD OF 3D-CT ANGIOGRAPHY

*K. Shibata, A. Takahashi, M. Saitoh, T. Honma, T. Onda,  
S. Kayano.* ..... 41

PATENT FORAMEN OVALE IN 2PATIENT WITH CEREBRAL INFARCTION

*T. Honma, M. Saitoh, K. Shibata, A. Takahashi.* ..... 43

PSORIASIFORM DRUG ERUPTION DUE TO CA ANTAGONISTS

*N. Takatsuka.* ..... 45

CLINICAL OUTCOME OF PERITONEAL DIALYSIS IN A SINGLE INSTITUTION

*S. Hisasue, K. Takatsuka, M. Yanase, F. Fukuta, S. Nishida,  
S. Miyamoto, S. Kato, M. Shima.* ..... 48

NURSING CARE PLANNING WITH PATIENT

—PATIENTS AND NURSING STAFF AIM AT THE BEST HOSPITAL CARE—

*C. Gotou.* ..... 51

RISK MANAGEMENT CONFERENCE CONTROLLED SAFETY MANAGEMENT IN THE WARD AND DECREASED NURSE CARE TROUBLE	
<i>R.Fujimori,E.Taniguchi,S.Tsujiguchi.</i>	56
NURSING CASE REPORT OF TERMINAL STAGE OF T COLON CANCER PATIENT WITH PALLIATIVE TREATMENT	
<i>H.Mitani.</i>	59
NECESSITY FOR A NURSING CARE DESIGN AFTER DISCHARGE	
<i>K.Miura.</i>	66
REVISION OF CLINICAL PASS FOR INGUINAL HERNIA ON PATIENTS' REQUIREMENT	
<i>T.Yokohama.</i>	69
RECONSIDERATION OF ACCIDENT REPORTS FROM FRESH-MAN REDUCED ACCIDENTS IN OUR WARD	
<i>M.Ito,M.Ooshima.</i>	73
ANNUAL REPORT OF NURSING INCIDENT AND ACCIDENT REPORTS	
<i>K.Onishi.</i>	76
CASE REPORT OF DISCHARGE OF A LONG HOSPITALIZED SCHIZOPHRENIC PATIENT	
<i>K.Iwai,S.Kosaka.</i>	78
ESTABLISHING THE AFFECTIVE ATTACHMENT BETWEEN MOTHER AND THE TWINS WHO WAS SEPARATED FROM HER MOTHER	
<i>S.Uejima.</i>	82
IMPORTENCE OF AN ADL NURSING CARE FOR THE ADMINISTRATION OF PAIN DUE TO SURGICAL INCISION	
<i>R.Kanada.</i>	86
NEUROPHYSIOLOGICAL INVASTIGATION IN CARPAL TUNNEL SYNDROME AND CUBITAL TUNNEL SYNDROME	
<i>T.Ashihara,M.Saitoh,Y.Mitsuhata,S.Noguchi,Y.Takahashi,</i>	
<i>K.Tateda,I.Kosukegawa,K.Yashiro,H.Obata,S.Miyano.</i>	94
WORK ON SUPER ACUTE REHABILITATION	
<i>M.Saigusa,T.Niizeki,M.Saitoh,K.Shibata,T.Honma,</i>	
<i>A.Takahashi.</i>	98
CPC REPORT	
I) A CASE REPORT OF BILATERAL BRONCHOPNEUMONIA	
<i>Y.Yanagida.</i>	101
II) A CASE REPORT OF MILIARY TUBERCULOSIS OF THE LUNG	
<i>K.Ueda.</i>	104
III) A CASE REPORT OF LUNG CANCINOMA	
<i>H.Oonishi.</i>	108
IV) A CASE REPORT OF AN ORIGIN-UNKNOWN CARCINOMA	
<i>T.Horiguchi.</i>	110
V) A CASE REPORT OF GASTRIC CANCER WITH MULTIPLE LIVER METASTASIS AND STUDY OF PALLIATIVE CARE	
<i>H.Nakatsumi.</i>	113
VI) A CASE REPORT OF UROTHELISL CARCINOMA OF AT URETER	
<i>S.Kato.</i>	116
RESULT OF THE QUESTIONNAIRE AFTER LARGE-SCALE DISASTER TRAINING IN SUNAGAWA CITY MEDICAL CENTER	
<i>A.Takada.</i>	121



ANNUAL REPORT OF STATISTICS OF SURGICAL OPERATION	
<i>T.Fukuzuka.</i> .....	129
STATISTICS OF OUTPATIENTS IN THE EMERGENCY ROOM OF SUNAGAWA CITY MEDICAL CENTER	
<i>T.Murakami,K.Yamakawa,T.Kajjura.</i> .....	134
REPORT OF ECONOMIC STATUS IN THE SUNAGAWA CITY MEDICAL CENTER FOR LAST 5 YEARS	
<i>N.Horishita,K.Morita.</i> .....	138
STUDY OF STUFF SERVICE FOR HOSPITALIZED PATIENTS AND ITS SUMMARY	
<i>T.Ito,H.Sasaki.</i> .....	144
ACADEMIC PUBLICATION (2005) .....	159